

「NGOの反捕鯨運動」

河島基弘（群馬大学）

環境保護運動では、環境・動物保護団体の役割は決定的に重要である。グリーンピースやシー・シェパード、WWF（世界自然保護基金）などの環境・動物保護団体は、市民の利害を代弁し、当局と交渉し、政府の政策を監視し、問題の所在を明らかにする役割を担っている。こうした団体は、既存の経済・社会制度や権力構造に批判的な眼差しを向け、環境に悪影響を及ぼす生活スタイルを自然と調和し、動物に優しいものに変える必要性を強調する。言い換えれば、環境・動物保護団体は、市民の意識に影響を与えて、社会を一定の方向に導く「社会的インフルエンサー」としての役割を担っているのである。1970年代以来続く欧米の反捕鯨運動においても、そのきっかけを作り、市民を運動に動員し、各国政府の政策にも大きな影響力を及ぼしてきたのは環境・動物保護団体である。本報告では、「資源動員論」と「新しい社会運動論」の2つを鍵概念として援用し、環境・動物保護団体と反捕鯨運動の関わりを考察する。